LEXUS TEAM ZENT CERUMO

2016 AUTOBACS SUPER GT Report

45 th INTERNATIONAL SUZUKA 1000km

第６戦　鈴鹿サーキット

ZENT CERUMO RC F

#38 立川祐路／石浦宏明

◆8月 28 日（土）　RACE

決勝結果　優勝

＜決勝＞天候：曇り／雨　コース状況：ドライ／ウエット

ZENT CERUMO RC F の改善に手ごたえを得つつも、立川祐路にとって痛恨のコースアウトによって Q2 の 8 番手となってしまった予選日から一夜明け、SUPER GT 第 6 戦インターナショナル鈴鹿 1000km の決勝日を迎えた。

接近する台風 10 号の影響もあり、8 月 28 日（日）はもともと雨の天気予報が出ていたが、この日の朝の鈴鹿は予報どおり雨。時折強く降ることもあり、サポートレースはセーフティカーのままチェッカーフラッグが降られた。

しかし、午前 10 時からのピットウォークの頃には雨は止みはじめ、午前 11

時 08 分のウォームアップ走行開始時には、路面は着々と乾いてきていた。事前の雨の予報から確実に好転してきており、多くのファンで賑わったスターティンググリッドで、LEXUS TEAM ZENT CERUMO はウエットタイヤか、ドライタイヤかの選択に頭を悩ませることになった。

迎えた午後 0 時 30 分のスタートに向け、チームが選択したのは他チーム同様のスリックタイヤだった。スタートドライバーは、前日の予選でのコースアウトを「取り返す」と意気込んでいた立川だ。

レコードライン上はなんとか乾いているかどうか……という滑りやすい状況のなかで切られた 1000km レースのスタートだったが、立川はその意気込みのとおりに、オープニングラップから果敢にアタックを仕掛けていった。1 周目に一気に 5 番手までポジションを上げた立川は、前を行く#8 NSX CONCEPT-GT にピタリと照準を合わせていく。

立川は 5 周目の日立オートモティブシステムズシケインで#8 NSX CONCEPT-GT のインを突き、ひとつポジションアップ。さらに 7 周目には 3 番手を走る#12 GT-R に接近していくと、12 周目の 1 コーナーでオーバーテイク。前を走るのは長年のライバル、本山哲選手駆る No.46 GT-R だ。

2 台は 13 周目あたりから熾烈な攻防をみせはじめていくが、30 周目の日立オートモティブシステムズシケインから 31 周目の 1 コーナーまで、サイド・バイ・サイドの激しいバトルを展開。これを制した立川は 2 番手に浮上し、さらにポールポジションスタートの

ZENT LEXUS TRD BRIDGESTONE EXEDY RMU RACING PADS
TWS MOTUL TAKATA TAMACHI トヨタ東自大 GIRO EXOEL

#15 NSX CONCEPT-GT に狙いを定めると、22 周目の日立オートモティブシステムズシケインでパス！　ピットで見守った石浦も「『挽回する』とは言ってたけど、トップまで来るとは……」と驚くほどの走りで、なんと 1 スティントだけでトップに立つ激走を披露してみせた。

ZENT CERUMO RC F を首位に導いた立川は、26 周を終えピットに向かうと石浦に交代。石浦も前日の予選 Q1 でみせた好走をそのまま引き継ぎ、抜群のペースで 2 番手以下を寄せ付けない走りを披露。一時は 2 番手以下に大きな差をつけ、58 周を終え盤石のリードを築きふたたび立川に交代した。

立川は第 3 スティントもパーフェクトにこなし、さらにピットクルーも前日高木虎之介監督が期待したように、ミスなく作業を続けていった。しかし、石浦がドライブしていた 82 周目、2 コーナー立ち上がりで GT300 クラスの#2 ロータスがクラッシュ。セーフティカーが導入されると、ZENT CERUMO RC F の背後に、後方からポジションを上げてきた#36 RC F が少しずつ近づきはじめた。

ZENT CERUMO RC F は 116 周を終えピットに向かい、49.7 秒という静止時間で石浦から交代した立川を送り出したが、前の周にピット作業をこなしていた No.36 RC F に先行されてしまう。これで ZENT CERUMO RC F は 2 番手に後退。立川はふたたび前を追う展開となった。

そんななか、173 周のレースのうち 125 周を終える頃になると、コース全域で雨が舞いはじめた。特に西コースの雨量が多く、#36 RC F もスリッピーな路面のなかで減速を強いられた。そこで立川は一気に#36 RC F との差を詰め、ふたたび首位を射程圏内に収めた。

129 周目、立川はスプーンで#36 RC F のインを突き、首位を奪回。目前の区間で#7 NSX CONCEPT-GT がコースアウトしていたためイエローフラッグが提示されようかというタイミングで、一瞬チームもヒヤリとしたが、審査委員会はイエローフラッグが提示されるほんのわずか前に 2 台は通過していたとして、ノーペナルティと判断。スリッピーな路面のなかで 131 周目、132 周目と#36 RC F と ZENT CERUMO RC F は順位を入れ替えることになるが、最終的に立川は首位を奪還。142 周を終えピットインし、43.5 秒という素早い作業で、チェッカーに向けた最後のスティントを石浦に託した。

LEXUS TEAM ZENT CERUMO が最後に行ったピットストップが#36 RC F のものよりも速かったこともあり、トップの座を盤石とした石浦だったが、終盤残り 5 周を切ったあたりから、ふたたび東コースを中心に雨が降りはじめた。スリックタイヤでいくには厳しいコンディションだが、もう今さらタイヤ交換を行うわけにはいかない。「目を疑いました（苦笑）」という石浦はなんとかコースに ZENT CERUMO RC F を留め、2 番手の#36 RC F とのギャップを見ながらチェッカーを目指した。

ZENT LEXUS TRD BRIDGESTONE EXEDY RMU RACING PADS
TWS MOTUL TAKATA TAMACHI トヨタ東自大 GIRO EXEDEL

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

「緊張していましたが、落ち着いてもいました」という石浦は、ファイナルラップの日立オートモティブシステムズシケインでわずかにコースアウトを喫したものの、マシンを壊すことなくトップチェッカー！　夕闇に包まれたグランドスタンド前に ZENT CERUMO RC F を停めると、笑顔で立川と喜びをかわした。

　嬉しい今シーズン初勝利をシリーズの天王山である鈴鹿 1000km で飾った LEXUS TEAM ZENT CERUMO は、これで大量 25 ポイントを加算し、シリーズランキングでも 2 位に浮上。首位の#1 GT-R とは 11 ポイントの差があるが、逆転を射程圏内に収めた。

　シリーズは次戦タイ大会、そして最終戦のもてぎは土曜、日曜に 1 レースずつという変則開催となる。チームは喜びに包まれ、チャンピオンシップを見据え気持ちも新たにしながら、鈴鹿を後にした。

ドライバー／立川祐路

「率直に言って、こんな疲れた 1000km は初めてです（苦笑）。最初から最後まで全開で走り続けなければならず、すべてのラップでプッシュしながら走ったレースでした。正直、疲れたときもありましたが、この勝てるチャンスをものにしないといけないと思い、懸命にがんばりました。その結果、こうして勝利を得ることができて、がんばった甲斐があったと思います。昨年から石浦選手という最強のパートナーを得て一緒に戦ってきましたが、なかなか勝てそうで勝てない状況が続いていたので、こうして勝つことができて良かったです。今年前半戦は苦しんだ部分もありましたが、1000km で勝つことができ、ランキングでも上げることができたので、チャンピオンシップも望みが出てきたと思います。残りのラウンドもチャンスはあると思っています」

ドライバー／石浦宏明

「チームに移籍して、スーパーフォーミュラではチャンピオンを獲ることができましたが、SUPER GT ではなかなか勝つことができませんでした。立川選手と組ませていただいているのに勝っていない状況は自分のなかでもプレッシャーになっていましたし、早く勝ちたいと思っていたので、その日が来て本当に嬉しいです。昨日の予選の後、立川選手がすごく悔しそうで『挽回する』と言っていたのですが、ファーストスティントではその気迫を感じました。決勝レースでの立川選手のパフォーマンスは飛び抜けたところがあり、クルマのパフォーマンス以上のものを出してくれますが、そんな走りを自分もしたいと、1 周も手を抜かずに走りました。途中、ギャップを作っても接戦になってしまうので、途中からは『絶対に競り勝つ！』という思いで走りました。勝てるチャンスはそうそう来るものではないので、このチャンスを絶対に活かすという思いが実って良かったです。最後は雨のなか、覚えていないくらい緊張しましたが、昨年も同様のシーンがあったので、落ち着いて走ることができました。本当に応援ありがとうございました」

高木虎之介監督

「予選は苦しい部分もあったので、レースであれだけのスピードをみせてくれるとは正直思っていませんでした。速かったですね。ペースも安定していましたし、何より今回の勝因は、最初のスティントでの立川選手のがんばりでしょう。あの走りで『今回はいけるかもしれない』と思うことができました。その後は石浦選手もしっかりと仕事をこなしてくれましたし、ピット作業もパーフェクトに行ってくれました。SUGO では惜しくも勝てませんでしたが、レースは流れも運もなければいけない。今回はそれがあったと思います。残り 3 レースでチャンピオンシップも見えてきたと思うので、チームも改めて気合が入っています。次のレースもいい戦いをしたいですね」

ZENT LEXUS TRD BRIDGESTONE EXEDY RMU RACING PADS
TWS MOTUL TAKATA TAMACHI トヨタ東自大 GIRO EXEL

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

決勝結果表

Rank	Car No	CarName	Time
1	**38**	**ZENT CERUMO RC F**	**05:45'34.230**
2	36	au TOM'S RC F	05:45'35.472
3	46	S Road CRAFTSPORTS GT-R	05:46'49.334
4	6	WAKO'S 4CR RC F	05:47'05.744
5	19	WedsSport ADVAN RC F	05:47'22.484
6	1	MOTUL AUTECH GT-R	05:44'50.135
7	100	RAYBRIG NSX CONCEPT-GT	05:46'55.170
8	39	DENSO KOBELCO SARD RC F	05:46'58.210
9	8	ARTA NSX CONCEPT-GT	05:45'56.433
10	17	KEIHIN NSX CONCEPT-GT	05:46'05.078
11	64	Epson NSX CONCEPT-GT	05:47'08.089
12	24	フォーラムエンジニアリング ADVAN GT-R	05:46'44.450
38	37	KeePer TOM'S RC F	03:10'18.460
40	15	ドラゴ モデューロ NSX CONCEPT-GT	02:37'42.084
42	12	カルソニック IMPUL GT-R	01:54'47.341